

災害により財産等に一定規模以上の被害を受けた方々に、生活再建に必要な支援制度を確実に利用していただくため、作成した被災者台帳と個々の被災者の支援情報を関連づけるもので、これで災害情報共有システムは完成となる。これにより、り災証明書が発行状況はもとより、その内容や各種支援制度の継続状況を市の内部で共有することができ、そのため、効率的で正確な事務につながる、被災した市民は、各種支援制度の情報とサービスを円滑かつ確実に受けることが可能になる。大規模災害が発生し、本市が被災した場合

合、災害情報共有システムを有効に活用し、被災した方々に対し的確な支援を行うことは、市民の皆様への早い生活再建につながる。復旧、復興に向けた第一歩となると考えている。



災害時に活用する災害情報共有システム

看護専門学校への学習環境向上への取り組みは

公明党議員団

議員 看護専門学校において、看護教員の人材確保に向けた取り組みや、校内無線LAN環境の整備を行い、より質の高い学習環境を提供していくことだが、その具体的な内容を伺う。

市長 看護教員は、日々進歩し高度化する医療に対応する教育を提供するため、教員研修や研究会へ積極的に、意欲的に参加しているほか、授業評価を実施し、より適切でわか

りやすいように授業内容、教授方法を工夫している。しかし、授業や実習のほかにも、多様化する学生の指導、学校行事の準備、国家試験への対応などさまざまな業務に携わっていることから、教員本来の業務である授業や実習の準備に十分時間をかけられない状況にある。今後、教員の業務分析を実施し、業務の代替や効率化を図ることにより、授業や臨地実習の準備に十分な時間を割き、万全の準備を整えて教員の本来業務に当たることができると体制を整えていく。現在在籍する教員12人のうち、半数が5年後の34年度

「ブランドメッセージ」の今後の展開は

凍(りん)の会

議員 本市のブランドメッセージは、選定経過から公共的なメッセージの趣が強く、「富士山と」運動のロゴマークとセットで展開されている。市長は「自らの頂に挑もうとする力、私は、この力こそが本市の都市活力であり」とつづり、都市活力再生戦略のブランドメッセージのようように受けとめているものと感じるが、シティプロモーションの1事業として展開されており、都市活力再生戦略を包括するものではない。公共的なメッセージであることから、「自分の頂へと歩んでいこう」に対して

末までに定年を迎えるが、教員としてひとり立ちするには3年程度の経験が必要であるため、現段階から計画的な人材確保に向けて、採用のあり方などについて検討するとともに、教員採用に対する応募者の拡大を図る観点から、学生に寄り添いながら地域に貢献する看護師を養成するといふ、魅力ある職業としてのアピールにも積極的に取り組んでいく。また近年、看護教育には動画が多く取り入れられ、

行政的には受け身となる傾向にあり、「自らの頂に挑もうとする力」を発揮していただくことには弱さを感じる。また、体系的にもブランドメッセージの本来の役割である基本計画全体を包括するような状況にもないが、今後の展開を伺う。

市長 ブランドメッセージを活用したシティプロモーションは、1事業として第五次富士市総合計画に位置づけているが、ブランドメッセージ自体は、行政計画に体系的な位置づけをしていない。総合計画等の行政計画は、社会情勢や経済状況を踏まえ具体的な将来像を描き、一定期間の諸施策を実施するためのものだが、ブランドメッセージは、目指すまちを語る言葉として、

教科書に示された二次元バーコードをスマートフォン等で読み込むことにより、看護技術及び人体の仕組みや働きなどが視覚的にわかりやすく解説されており、これらを授業で使用することが学習の主流となりつつある。このことから、無線LAN環境の整備は、情報科学室以外でも、インターネットを有効利用する環境を整い、学生の学びをさらに広げるとともに、質の高い学習環境の提供により、新たな魅



看護専門学校の情報科学室

力として学生の獲得にもつながるものと考えている。

長期にわたり市民の心の持ちようや行動スタイルを示すものである。このため、各行政計画に位置づけた施策を実施する上での前提となるものである。行政計画への体系的な位置づけは、新年度から策定に着手する本市の最上位計画の第六次富士市総合計画で、盛り込み方の検討をしていく。ブランドメッセージの目指す将来像は、自分なりの頂を目指して一歩踏み出す人が街中にあふれ、その歩みをみんなが応援する素敵なまちになることである。市民1人1人から自発的に頂へ挑もうとする力が生まれ、本市全体が活力あるまちとなっていくよう、多くの市民や企業、団体等の皆様と協働しながら、粘り強く取り組んでいく。